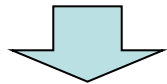


# 金沢市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 19年5月～24年3月)

## 【中心市街地を巡る状況】

- 四百年以上、戦災や自然災害を受けることなく、城下町のまちなみ、文化・伝統等を継承
- 20を超える金沢市独自のまちづくりに関する指導・勧告を含めた条例の活用等により、保存と開発の調和を図る
- 郊外型大規模小売店舗の出店



### ○歩行者・自転車通行量(休日)の減少

76,956人(H9) → 73,292人(H17) [△4.8%]

### ○中心市街地の人口減少

74,033人(H7) → 62,245人(H17) [△15.9%]

### ○年間商品販売額の減少

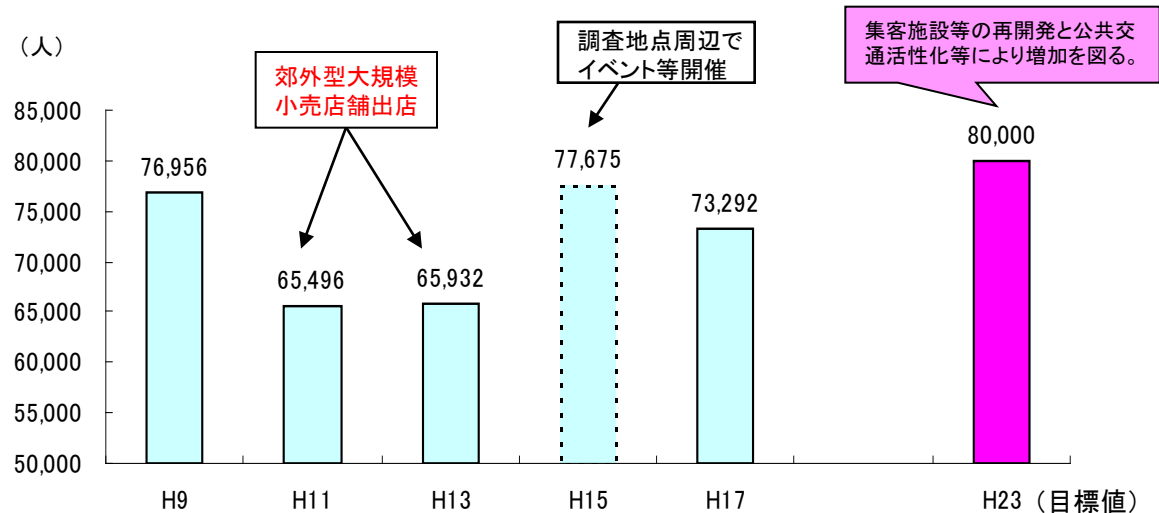
2,162億円(H9) → 1,598億円(H16) [△26.1%]

## 【目標】

目標	指標	現況値(H17)	目標値(H23)
にぎわいと交流が生まれる中心市街地	主要商業地の休日の歩行者・自転車通行量	73,292人	80,000人
	JR金沢駅の年間定期外利用者数	368万人	400万人
過度に自動車に依存しない中心市街地	金沢ふらっとバスの乗車人員	708,478人 (市内バス利用者の約2.5%)	750,000人
誰もが暮らしやすい中心市街地	中心市街地の人口の年間社会動態	▲462人/年 (H14～H18の平均)	H19～H23の合計をプラスに転じさせる。

【歩行者・自転車通行量(休日)の動向と数値目標】

※都心軸沿いの6調査地点の合計



固有の歴史・伝統・文化が息づく、美しい街並みや景観の保存に注力する一方、「都心軸」における再開発事業を促進するなどメリハリが効いた保存と開発を図り、「人が住まい、集い、にぎわう」まちづくりを目指す。

# 金沢市中心市街地活性化基本計画の事業概要

## にぎわいと交流の創出

- 近江町市場(1580年からこの地で開かれている朝市を起源とした由緒ある市場)を再整備(商業・公益機能の複合施設の一部)



(現在)



(再整備後のイメージ)

- 都心軸を形成する重要な地区である金沢駅武蔵北地区第三・四工区の再開発(住宅・商業施設、公共施設等を一体的に整備)



(再整備後のイメージ)

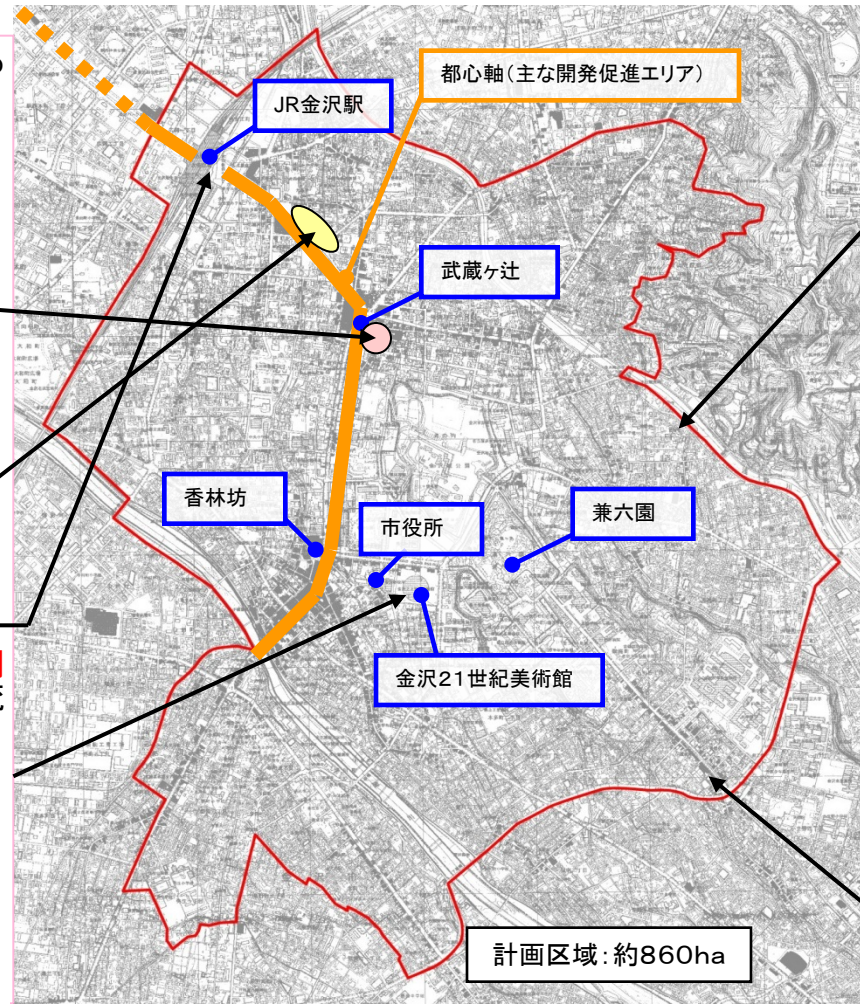
- 各種イベント等(中心市街地内において年間1,600回(H18実施)の実施によるにぎわいと交流創出)



金沢百万石まつり



金沢ファッションウィーク



## まちなか居住推進

- 金沢らしさを活かしたまちなか定住促進事業(中心市街地での戸建住宅・分譲マンションの新築・購入費、共同住宅等の建築費等を補助)
- コミュニティ空間保存活用事業(広見・寺社等の境内、袋小路・用水・わき水といったコミュニティ空間の保存と活用を行うことにより、地域コミュニティの活性化を推進)



横山町広見まつり



大野庄用水

- まちなか学生共生事業(郊外に移転した大学の学生等が主体となって各種イベントを実施(H18:72回開催)、学生のまちなかにぎわい創出とまちなか居住を促進)

## 公共交通活性化等

- 金沢ふらっとバス(100円/回。国内初の小型ノンステップバスを採用した循環型コミュニティバス(H11.3より運行開始)。H19.2からエコポイント制度を導入(ICカードにより、買物・バス乗車でポイントを貯めてバス運賃として利用)。
- バストリガー方式(路線の新設・延長、増便、特定区間の運賃低減等を実施する際に、学校・自治会等の利用者団体とバス事業者が、予算採算ラインを上回るよう利用促進に努めるなどの協定を結ぶ方式。利用者へのインセンティブが働くとともに、事業者のリスクを低減することが可能)を導入。
- 景観に配慮して道路標識を縮小する社会実験(道路標識特区を活用)を実施。
- 「学生雪かきボランティア」活動として、7地域の町会で約200名の学生が登録し、高齢者の除雪支援等を実施。



金沢ふらっとバス